

筒井弥生

■米国アーキビスト協会（SAA）年次大会
参加報告（2009～2011）

2011年6月より個人会員として入会を認めていただきました筒井弥生と申します。

2009年から今年にかけて、3回の米国アーキビスト協会（the Society of American Archivists :SAA）の年次大会に参加しました。その報告が今回のポスターです。

2008年4月、私は学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士前期課程に1期生として入学、その年の10月に講演にお越し頂いた Dr. David B. Gracy II 教授（テキサス大学オースティン校）にお会いすべく、2009年のSAAオースティン大会にグループで出かけました。海外学会で発表すれば、大学から奨学金が頂けるとのこと、アーカイブズ学専攻が開講した意義と実際の学生生活をポスターに描きました。翌2010年のワシントンDC大会へは古典期のアテナイのアーカイブズについて修士論文の内容をまとめました。NARAやスミソニアン協会、米国議会図書館の見学や利用も果たしました。この大会参

加に対して、アート・ドキュメンテーション学会より助成金を頂き、2011年のSAAの本拠地シカゴでの75周年記念大会に出かけることができました。東日本大震災に対するアーキビストの皆さまのご活躍と私自身が参加したsaveMLAKの活動を紹介しました。多くの機関、個人のみなさまのお世話になりました。心から御礼申し上げます。

ポスターには、SAAリサーチ・フォーラムへの発表内容のほか、見学先、参加イベント、特記事項としてデジタル関係の動向なども記載しました。はじめて全史料協の全国大会に参加して、研究会、全体会、団体や企業の展示、地元のみなさまの歓迎ぶり、全国のアーカイブズ関係者が一堂に会し、旧交を温め、新しい出会いに期待するご様子に、SAAの雰囲気と似ているところがあると感じました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。